



生徒の皆さんへ

季節は夏から秋へと移り変わってきました。今週はいよいよ中間考査が始まります。学習時間もしっかり確保して、学力も伸ばす実りの秋としましょう。二度とない高校生活を充実させるために、人生の方程式を参考までに御紹介します。

今夏 郷土愛にあふれる稲盛和夫氏逝く

人生の方程式

鹿児島県の誇る人物であった稲盛和夫氏が今年の8月に急逝された。心から哀悼の意を表したい。ここで稲盛氏の足跡をたどり、教えの一部を振り返りたい。

稲盛和夫氏は鹿児島市出身で、鹿児島大学工学部を卒業後、京セラを設立して集積回路用ファインセラミック製品を開発して半導体など幅広く事業展開した。鹿児島にも川内、隼人、国分と工場を開設して、雇用拡大にも貢献した。その後、電気通信事業自由化に着目して、KDDIも創業した。また、経営破綻した日本航空の再建を無給で引き受け、見事にV字回復させ再上場に尽力した人物である。

組織を小集団に分けて効率化を図る「アメーバ経営」や「利他の心」を重視する独自の経営哲学は「稲盛フィロソフィー」と呼ばれた。ボランティアで塾長を務めてきた「盛和塾」は国内外に104塾を数え、人材育成に力を注いだ。科学・芸術支援のため京都賞創設や鹿大の稲盛会館建設や県市に多額の寄付を行った。

稲盛さんが数多くの人から慕われていたのは、その才能でも運でもなく、ただひとえに努力の積み重ねで人生を切り開いた人物だからである。2019年7月に鹿児島県が名誉県民第1号として決まった際のインタビューにおいて、その人柄がよく現れている。そこで繰り返されたのが「その先に何かあろうと、何もなかろうと、努力する」の言い回しである。自分の置かれた境遇の中で全力を尽くす。報われるかどうかではなく、ひたむきに役割を果たそうという稲盛氏の姿勢にはただただ頭が下がる思いであり、なかなか同じようにはいかない。

稲盛フィロソフィーのひとつに「人生・仕事の結果＝考え方×熱意×能力」という人生の方程式がある。つまり、人生の成功は考え方と熱意と能力の3要素のかけ算で決まるというのである。とりわけ「考え方」が最も大切であり、「能力」少々劣っていても問題なく、前向きな「考え方」と「熱意」があれば成功すると語られている。また、逆境の時こそ、不平不満にとらわれずプラスな考え方が大切であると諭されている。

この「考え方」を最も大切にすることは、高校生の皆さんにも是非、心に留めてほしい所である。若き日に進学で挫折を味わい、就職でも恵まれなかった経歴を持つ稲盛氏から発せられる言葉は説得力がある。本県の誇る人物の生き方には数多くの学びがあり、本校図書館にも稲盛氏の蔵書がある。



集中力アップの秘訣④

勉強机の向きや場所にこだわる

生徒のなかには、月に1回は部屋の模様替えをする子がいるそうです。理由を聞くと、同じ配置だと飽きちゃうとのこと。でも、そうやって自分なりにこだわりを持って配置していることには意味があります。その子は「飽きることが自分の集中を欠如させる」と自覚してやっていました。やはり、自分を自分なりに分析して、その結果、修正していく力が備わっており、事実、その生徒はすごくデキる子だそうです。

皆さんも今の配置を好きでやっているわけじゃないなら、机の向きや場所にもこだわってみてください。たとえば、机をカベや窓際にくっつけるのが普通なのですが、カベ側を背にして机を中央に向く形にしたほうが、落ち着けるとい人もいるかもしれません。というのも、お店でご飯を食べるときなども、はじこのテーブルのほうがなんとなく落ち着く人もきつというはずです。

それと同じ原理で、後ろに見えない空間が広がっていると、どうしても気が散る子もいるはず。特に、自己肯定感が低い子には不安症の子が多く、背後にできる「自分の把握できない空間」が気になって集中しづらようです。

もしかしたら、自分の集中力が続かない原因が環境にあるかもしれません。なお、季節によっても、居心地のよさや集中のしやすさが変わることがあるので机を動かせる人はいろいろ試してみてください。

たとえ、机が動かせなくても、「暗記は部屋の隅でやる」など、いろいろと工夫してみるのもいいですね。

いずれにしても、自分の部屋があるとしたら部屋を管理するのは他でもない自分自身です。まずはが集中できる環境を自分自身でつくるのが大切だといえます。



保護者の皆様へ

ここに来て島内における感染状況も落ち着きを見せ始め、感染レベルも最高のレベル4からレベル3に引き下げられました。本校でも、8月から9月にかけて感染拡大の影響を受けましたが、現在は落ち着いてきています。誠に残念ながら第70回体育祭を無観客と致しましたが、特に、観覧希望の3年生保護者の皆様には大変申し訳なかったと感じております。今後、3年生は進路実現のため佳境に入って参りますが、何卒、引き続きの御理解と御協力をお願い申し上げます。